

令和6年度

「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」

沖縄・農業分野における有機的高専連携プログラム開発・実証事業

インターンシップ受入企業及び サービスラーニング受入についての調査報告書

令和7年1月

学校法人 KBC 学園

沖縄ペットワールド専門学校

目 次

有限会社 ペットクラブオーシャン	1
ペットメディカルセンター エイル	10
DMMかりゆし水族館	17
沖縄こどもの国	25
調査総括	42
学生の社会貢献活動の方向性	44
KBCサービスラーニングとは	47
(資料)	
サービスラーニング受入に関する調査票	48

有限会社ペットクラブオーション

沖縄県中頭郡北中城村にある1993年設立のペットショップ。愛玩動物を中心にペットの販売、ペット用品の販売、トリミング、アニマルクリニックを備えるワンストップ型の総合ペットショップ。2024年3月に本店新店舗リニューアルオープン。北中城本店の他、キャンプ・コートニー、キャンプ・カデナにグルーミングショップの支店を持っている。



日時:12/10(火)11:00~12:00

場所:沖縄県北中城村 有限会社 ペットクラブオーション

お伺いした方:代表取締役金城高治様

九州ケネル事業協同組合専務理事、元北中城村村会議員

①職場見学や職場体験、インターンシップの受け入れ状況と内容について

Q:インターンシップを受入れている学校を教えてください。

小学生や中学生、高校生を受入れています。専門学校生は実習ということで受入れています。

Q:小学生はどんなことをされていますか。

小学生は、店舗に入ってもらっています。普通のお客様もいらっしゃるの
で商品や動物には触らず、カウンター内や店先であいさつをしてもらって
います。

Q:時間はどのくらいされていますか

午前中のみです。だいたい2~3時間でお店の雰囲気を感じてもらって
います。

Q:中学生も店舗見学のような感じで受入れをされているのでしょうか。

いいえ。中学生は、店舗見学ではなく職場体験をおこなっています。内容
は、陳列商品の拭き掃除や陳列をしてもらったり、店内を清掃したり、カウ
ンターの中に入ってもらって接客などをやってもらっています。

Q:高校生はどうでしょうか。

高校生は中部農林高校の熱帯資源科の動物コースから職場体験を行っています。彼らは、動物の勉強もしていますし扱いにも慣れているので、動物の世話や飼育を手伝ってもらうこともあります。

トリマー希望で経済的な理由で専門学校に通えない生徒がいたことがあったので、アルバイトとしてトリマーの手伝いをしてもらい基本的な技術を身に付けてもらったこともあります。

もちろん、本人の希望によってショップ中心の職場体験を行うなどなるべく本人の希望に添うような形で行っています。

Q:受入れの期間はどのくらいでしょうか。

中学生の職場体験は、3日間行っています。

私が議員をやっていた時に中学校の発表会に呼ばれたことがあり、そこでたまたま中学生が職場体験のパネル発表をやっていて、中学生が一生懸命真剣に発表している姿に大変感動しました。このような会を中学校では外部に公開しておらず大変残念に思いましたので、職場体験に協力していただいた企業全員に声をかけて発表会に参加してもらおうよう進言をしたこともあります。

中学生の目線から見た我々企業の姿を知ることもでき、私たちも勉強させていただけることも多いと思います。

Q:専門学校の実習についてはどうでしょうか。

専門学校は、1日6時間で6日間の実習を行っています。内容は、トリミングやシャンプーなど専門学校で学んでいることを実習してもらっています。なるべく実際の現場に近い形で実習を行い、教科書や学校では学べないことをやるようにしています。

Q:例えばどのようなことでしょうか。

例えば、お客様からお預かりした犬を抱くときでもただの移動ではなく、その子が太っているか痩せているか、皮膚に異常はないか、体にしこりはないかなど、抱くことの意味(健康管理を兼ねる)を知ってもらおうようにしています。

②職場見学や職場体験、インターンシップの受け入れ評価について

Q:様々な学校から職場見学や職場体験、実習を受入れておられる中で、インターンシップが終わったあとの評価はどのようにされていますか。

小学生の場合はお店の雰囲気を知ってもらえればよいので、特に成績をつけるような評価はしていません。

中学生は、実習日誌のようなものがあるので、それに評価をしますが、やはりあまり厳しい評価はせずにはげますような書き方をしています。

専門学校の実習評価は、将来プロフェッショナルになろうとしているわけですから、従業員基準で厳しい評価をしてもよいのではないかと思います。

基本的に実習日誌での評価になるので、そういう意味でいうと評価基準が特に明確になっているわけではないですね。

③職場見学や職場体験、インターンシップの問題点や課題について

Q:職場見学や職場体験、インターンシップの課題として挙げられる点を教えてください。

小学生の職場見学についてはまだ子どもなので仕方がないところもあると思いますが、中学生については、職場体験の目的を先生方に明確にしていただけるとこちらとしてもやりやすくなります。

最低でもあいさつなど基本的なことが出来るようになって来ていただけると助かります。

専門学校の実習については、学校である程度技術を習得しているので、今どのくらいの技術を持っているのか、どのような人物(性格)なのか、本人の将来の希望は何なのか事前にわかるとありがたいです。

それを見て、こちらの実習をしてもらうことを変えたり本人のためになるような内容に変えたりして対応も変えることができます。今は、実際に実習にきていただいてから対応するスタイルを取っています。

Q:具体的にどのような評価があればよいでしょうか。

そうですね。例えばトリマーならば、トリマーとしての技術評価や、本人がどのようなトリマーを目指しているのか、ショップ希望なのか。技術だけでなく、本人がどんな長所がありどこが短所なのか、何ができて何ができないのか、などです。

特に、本人が実習で何を学びたいかはっきりしてきてもらうと協力の仕方も変わってきます。

④ペット業界の課題について

Q:これからのペット業界の課題は何でしょうか。

業界全体の課題としては人手不足と後継者不足につきますと思います。

この業界は、普通のビジネスとは違うところが多くあります。扱うもの(動物)の特殊性や法律に左右されることもありますし、商品自体が高価であることも確かです。仕事として考えるとそのノウハウを蓄積するにもそれなりに時間がかかります。なかなか大変なことも多く、この仕事をずっと続けられる人が少なくなっています。そのため、やっと一人前に成長した頃に辞めてしまう人が多いのが現実です。ですので、需要はあってもビジネスを展開できていないのが現状です。

もうひとつの課題、後継者不足に関しては、特にブリーダーが深刻です。今、沖縄にはブリーダーが500名程度いると思いますが、ほとんどの方が60歳以上の方です。30代40代は非常に少ない。ブリーダーの方は個人でされていて皆さんギリギリのところまで仕事をされています。悪質なブリーダーが社会問題にもなり法も厳しくなったため、ビジネスとしての可能性がないので若い人も取り組みにくいのだと思います。今のままでは、2,30年後のこの業界はどうなるのか不安になる飼い主さんもいらっしゃいます。

Q:人手不足にはどう対応されているのでしょうか。

人手不足にはパートアルバイト採用で対応しています。トリマーとしての技術を持っていて子育てで一時仕事から離れている方も多いため、そのような方に(基地内にある2つのグルーミングショップも)手伝っていただいています。最近では、他の仕事と兼業するWワークをされる方も増えています。



Q:今後、我々は学生ボランティア活動を一步進めたサービスマーケティングの展開を考えていますが、よいテーマはあるでしょうか。

サービスマーケティングのテーマとして「譲渡会」が考えられます。繁殖犬は6歳になるとその役割が終わるので、ブリーダーからすると繁殖犬の譲渡需要が発生します。譲渡される犬は子犬ではありませんが、血統のよい犬です。そのため飼いたいという一般の方もいらっしゃいます。

当社では、月2回譲渡会を開催しています。その際にトリミングやシャンプー、飼い方講習などで専門学校生に協力していただけるとこちらとしても助かります。

2019年改正された動物愛護管理法で、ブリーダー業者に対し動物の健康や安全を保つことを強く求め、適正飼育のための細かい数値基準が設けられました。スタッフ1人あたりが飼育できる繁殖犬の頭数は15頭に制限されました。さらに出産の回数は生涯6回までで、交配時の年齢も原則6歳以下と決められました。

Q:譲渡会の告知はどうされているのでしょうか。

あまり多くの方が来場されても対応しきれないので、譲渡会の告知はホームページで掲載するだけです。それでも何十人の方が口コミで集まってきました。今後譲渡会の規模が大きくなれば告知方法も学生さんの知恵をお借りすることもあるかもしれませんね。

⑤その他

Q:今年度は高専連携の一環として、卒後研修を行いました。

とてもよい試みだと思います。トリミングの仕事をはじめると日々の仕事に追われ勉強する機会や社外の方の技術を学ぶ機会が少なくなります。お互いに切磋琢磨できる環境をつくる意味でもよいことだと思います。

よい技術者を育てるのも大切ですが、何より大切なのは教える先生の教育だと思います。一定のレベルに達した人だからこそ、より多くの人から学ぶ吸収力も理解力もあります。ぜひ、教える立場の技術者に参加していただきたいと思います。

もちろん、内地から先生を呼ぶのもいいとは思いますが、沖縄には米国のトリミング技術とハンドリング技術を日本に広めた第一人者の原順造先生がいらっしゃいます。トリマー指導を全国各地の専門学校で行われ、ジャパンケネルクラブ主催ドッグショーの審査員も務められています。ぜひ、一度講演をお願いされてはいかがでしょうか。

ペットメディカルセンター エイル

沖縄県沖縄市にある動物病院。

株式会社 WOLVES HAND(2024年6月20日東証グロス上場)動物病院グループとして県内7か所(沖縄、那覇、豊見城、北谷、ライカム、浦添、名護)で動物病院を展開している。



日時:12/11(水)10:00~10:30

場所:沖縄県沖縄市 ペットメディカルセンター エイル

お伺いした方:喜納様

①インターンシップについて

Q:インターンシップを受入れている学校を教えてください。

中学生と、高校生、専門学校生を受入れています。

Q:どのような内容でしょうか。

中学生と高校生はいわゆる職場見学です。ロビーなどの掃除や、カウンターの中に入って職員の動きを見てもらったり、診察の様子を見てもらったりしています。場所によっては診察を見学してもらったりもします。

Q:専門学校のインターンシップはどのような内容でしょうか。

専門学校生は期間が長く、基本的に月曜から金曜の5日間行っています。インターンシップの流れとしては、まず、学生とインターンシップ前に十分な聴き取り面談を行います。

面談は2回程度行い、そこで、学生の考え方や取組姿勢を詳しく聞きます。その後、適性などを見極めたあと、グループ内施設にマッチングをしています。当社の施設は7か所あり、それぞれ設備やその地域や飼い主様、犬種や年齢などが異なり、特徴がある程度はつきりしているので一番合っているところの責任者と調整して決めています。

Q:具体的にはどのような特徴があるのでしょうか。

CTやMRIなど先端医療機器を備えた施設、地域の人とふれあいが
多い施設、小型犬の患者が多い施設、比較的若い年代のお客
様が多い施設、飼い主さんとゆっくり対応できる施設など
があります。

学生さんの要望や適性をみて決めて、もしうまくいかな
ければ、途中で移動することもあります。

Q:インターンシップを通じて学生に伝えたいことは何
でしょうか。

インターンシップを通じて現場を肌感覚で理解して
いただき、自身のキャリア目標をしっかりと持って就
職していただけることがベストだと考えています。

3年次の実習(インターンシップ)は特に「就職」を
意識していますので、当院の看護師とペアで診療補
助をしてもらい、評価シートでチェックをしていま
す。

Q:1・2年のインターンシップはどうでしょう
か。

1年・2年次の実習(インターンシップ)は、まだ勉
強の途中なので専門的な実習は行っていません。し
かし、実習を通して学生さんとお話しをする中で、
学生さんの考え方や学生の感じた素直なイメージを
聞かせてもらい、そういう考え方もあるんだとか、
そういうイメージを持たれているのかと、こちらも
いろいろ勉強させてもらっています。

学年が上がるに従って、実習中に質問される内容
が深い内容になってきます。また、最初は何気なく
見ていたことがしっかり観察できるようになってき
ます。そのような変化を感じたときは成長したなと
思います。

Q:インターンシップの決められたプログラムはあるのでしょうか。

インターンシップのプログラムはきちんとしたものを作りたいとは思っていますができていないのが現状です。現場の状況も日によって違いますので、状況にあわせその時のベストな環境で行っています。

Q:状況対応というのは具体的には何をされていますか。

基本的には、学生の日誌を見せてもらって、日誌で質問があったことや希望を確認します。体験してみて初めてわかることや疑問に思うことを大切にしているからです。

チェックした質問や疑問点は、実習期間内に答えていきます。また、体験しないとわからないことなどは、それに応える形で実習内容を変えることもあります。

②インターンシップの課題

Q:インターンシップの課題としてどんなことがあるでしょうか。

先ほど説明させていただいた通り、学生さんが書く日誌の内容がその後の実習の方向性を決めることもあるので、気が付いたこと、要望、質問などなるべく感じたことを多く書いてくれると助かります。

Q:日誌が非常に重要であることがわかりました。学生が書く質問や要望の内容に関しては何かあるでしょうか。

どんな些細なことでもよいので感じたことを素直にそのまま書いてくれると助かります。我々が気づかないことの勉強にもなります。

それと、実習で学びたい内容をはっきり、明確に持って参加していただくと対応しやすくなります。ただ、学校の実習の一環としてきていただくのと、目的を持ってきていただくのでは全く違うものになると思います。

また、特に3年次には自分自身のキャリアアップの目標と計画を立てて参加していただくとより有意義な実習になると思います。

Q:キャリアアップの目標と計画とは？

例えば、「私は将来トリマーとして独立開業したい。そのために、3年間ここで基本を身に付けさせていただいて、その後アメリカで数年間修行する。コミュニケーションが取れる英語とトリマーの腕を磨き再び沖縄に戻り開業する。」などです。このような目標と計画を持った人は本当にうちに来て欲しい人材です。

このようなキャリアプランを持っていらっしゃる方だと、我々もその内容と施設のマッチングがしやすく、ミスマッチが起こりにくくなりますし、応援したくなります。

Q:ところで、今の学生は昔と比べて変わったと感じることがありますか？

そうですね。最近の学生は、昔と比べて積極的に話しができる学生が増えている印象をもっています。我々としてもそのような学生の要望をかなえてあげたいと思っています。

そのような学生さんのおかげで、今のところインターンシップに関してはうまく回っているように思います。欲をいえばもう少し多くの人数を受け入れたいと思っています。

③業界の課題

Q:現在、御社の課題や業界の課題はありますか？

会社としては、中間層の人材がなかなか育っていないのが大きな課題だと思っています。

例えば、様々な経験を積み病院全体を調整できるような中堅看護師の層が薄いことが挙げられます。その中堅看護師が出産育児をするとき、抜けた穴を埋める人材がいなくなるということが起こりえます。これでは、安心して働きやすい環境とはいえません。

対策として、現在、看護部のキャリアパスの見直しと組織化を行って、組織として機能する部門にしていこうとしています。安心して働きやすい職場環境の整備が最優先課題だと思っています。

Q:人を多く採用すると経営を圧迫するのではないのでしょうか。

人材を多く雇用するリスクより、マンパワーが足りないことによるリスクの方が大きいのが現状です。

マンパワーに余裕がないと労働環境の改善もできません。労働環境の改善ができないと人も集まりません。

そういった意味ではまだまだ人材不足が続いていると考えています。

現に平日はなんとか予約制で業務を回していますが、土日は回っていません。確かにマンパワー不足は職員に負担はかかりますが、それ以上に負担をかけてしまうのが飼い主様です。さらに、飼い主様以上に動物に負担をかけてしまうことになります。動物や飼い主様のために、何としてもマンパワー不足を解消したいと思っています。

④サービスラーニングについて

Q:今後、我々は学生ボランティア活動を一步進めたサービスラーニングの展開を考えていますが、よいテーマはあるでしょうか。

そうですね。我が社は先ほど申し上げた通り、7施設それぞれに特徴がありそこでのイベントや講習会が考えられます。

例えば、シニア犬が多い施設では「ターミナルケア」「シニア介護」の講習会やイベントが可能だし、パピー犬が多い施設では「しつけ教室」、中型犬が多い施設では「日常ケア」など、施設によってテーマを決めて講習会やイベントなどが開催できる可能性があります。

今はやりたくてもなかなかできない状況なので、学生さんの力をお借りすることができれば、学生さんの学んできた技術や知識が生かせ、集まってくださった飼い主様のためにもなるイベントができるのではないのでしょうか。



DMMかりゆし水族館

沖縄県豊見城市にある水族館

2020年5月豊見城市に開業した新しい水族館。水槽を60基備え、190種5000点を展示している。

合同会社DMM.comのグループ会社である株式会社DMM RESORTSが企画運営を行っている。



12/11(水)15:00~16:00
沖縄県豊見城市 DMM かりゆし水族館
お問い合わせ方 桃井様

①インターンシップについて

Q:インターンシップの受入はされていますでしょうか。

中学生、高校生、専門学校生、大学生を受け入れています。

動物や水生生物の勉強をされている高校生や学生さんには、水族館の展示生物の飼育や水質管理など専門業務を体験していただいています。

その他の中学生、高校生、大学生は、バックヤードの見学や店舗など様々な部署を体験していただいています。

Q:インターンシップを通して学生に伝えたいことは何でしょうか。

参加された学生さんの職業観の変容や職業観の形成のきっかけになることを目指しています。

我々人事部では、人の行動はその人の価値感に基づいて行われると考えています。そして、人の行動変容もその人の価値感変容に基づくと考えています。この意味では私たちの目指すところは学生さんの価値感変容です。



価値感変容のプロセスを簡単にいうと、「体験」→「体感」→「理解(価値観変容)」のプロセスを通して行われると考えています。

インターンシップで現場を「体験」することで、それを自分自身の感覚に落とし込み「体感」してもらいます。体感がすぐに既存の価値感を変容することもありますし、そうでない場合感覚は「感情」として記憶され良い感情であれ悪い感情であれ、それが飽和したとき(閾値を超えたとき)に価値感の変容が起こると考えています。

「経験価値」における5つの経験領域



ただ単に体験するのではなく、感覚や感情に落とし込んでもらえるようなインターンシップを目指しています。

Q:インターンシップを受入れるときに気をつけていることは何でしょうか。

学生さんにインパクトのある体感をしていただくために、動物の勉強をされている学生さん、具体的には沖縄水産高校の生徒さんや専門学校の学生さんは、「お客様扱い」をしないようにとスタッフに指導しています。

Q:従業員目線でということでしょうか。

はい。同じスタッフとして指導するつもりで接してもらっています。とはいうものの、従業員ではないので重大な責任が伴わない作業などをやってもらっています。その代わりに作業の仕上がりはプロとして通用するレベルのものを求めています。



②インターシッププログラムについて

Q:インターンシッププログラムは独自に作られていますか？

インターンシップに来られる学生さんの要望に応じたプログラムを用意させていただいております。

Q:具体的にはどのようなプログラムがあるのでしょうか？

そうですね。基本的なテーマとしては、「働くことの意義(価値観)の形成」、「体感したことの言語化・可視化」、「多様な価値観の受容」などをテーマにしたプログラムを用意しています。

インターンシップに来られる学生さんの目的に応じて、それらの重みを変えてプログラムにしています。

Q:例えば、「体感したことの言語化・可視化」プログラムはどのようなものでしょうか。

職場体験や職場実習後に、

- ①「学んだこと」
- ②「私の働き方観」
- ③「水族館への提言」

など決められたテーマにしたがって、10分間のプレゼンテーションをしてもらいます。

Q:その評価はどのようにされていますか？

10分間のプレゼンテーションは職員の前で行います。発表後、職員から質疑応答をしてもらい、職員から評価を受けます。質疑応答と評価で20分使いますので、だいたい一人当たり30分になります。

評価は、基本的にはよかった点を挙げていきますが、改善点などもはっきり伝えるようにしています。

Q:沖縄水産高校のインターンシップはどのようなことをされているのでしょうか。

沖縄水産高校とは、学校と連携を取っており、授業の一環として見学実習を行っています。

③海洋教育プログラムの開発実施

Q:インターンシッププログラムの他に教育プログラム化されているものはありますか？

海洋教育プログラムを開発・拡充しているところです。県内外の小中学生・高校生のための海洋環境学習が学べるプログラムです。

授業の一環として導入していただけるように、学習指導要領に沿って作られています。



プログラムは、名護にある国際海洋環境情報センター(GODAC)に協力をいただきながら開発しました。

現在、沖縄県内8市町村の小中学校で実施していただいています。今年で、参加数者のべ約2000名になりました。

Q:どのようなプログラムでしょうか？

アクションラーニングを基本とし、事前・事後プログラムを含むプログラムになっています。

例えばサンゴをテーマとしたものでは、「サンゴと沖縄のかかわり」、「サンゴと生活とのかかわり」などがあります。

校外活動で利用しやすいように、3時間程度の半日プログラム中心に活用いただいています。

プログラムとしては、理科や社会、総合の時間を利用して来ていただくことが多いです。



④業界や組織の課題

Q:業界や組織の課題としてはどのようなものがあるでしょうか？

業界ではないのですが、我が社では現在従業員の働き方を見直しています。というのは、従業員が行っている仕事の中にはアルバイトでもできる仕事があるため、アルバイトでできる仕事はアルバイトに任せ、従業員がより働きやすい労働環境をつくったり、人的パワーを別な展開にもってきたいと思っています。

ご承知のとおり、沖縄県は観光業やサービス業が多く県全体が慢性的な人手不足の状態なのでなかなか厳しいのが現状です。

⑤サービスラーニングについて

Q:今後、我々は学生ボランティア活動を一步進めたサービスラーニングの展開を考えていますが、よいテーマはあるでしょうか。

持っている知識や技術を地域で活用する、という点で私たちが取り組んでいるインターンシッププログラムや海洋教育プログラムは同じ方向性だと思います。とてもよい試みだと思います。

実習やアルバイトで来ていただく中で、新しい業界課題や地域課題が明らかになることもあると思います。学生さんの力をお借りするとスムーズに進むこともあるかも知れませんね。

実施している体験プログラム

①えさあげ・ふれあい体験(2022年)

ゾウやライオン、ウマやヤギなどの家畜動物、ふれあい広場ではウサギ、モルモット、ヒツジに直接エサを与え、動物たちを身近に感じる場を提供。

	年間体験者数
ふれあい(ウサギ、モルモット、ヒツジ)	23,277名
ウマ	11,064名
ゾウ	1,977名
家畜動物	11,672名
合計	47,990名

アニマルゾーン

FEEDING

エサあげ体験

動物の種類によって、食べるエサも色々なものがあります。そして、食べ方も様々です。動物たちにエサをあげながら、その様子をじっくり観察してみよう！
常時開催のこちらの体験プログラム以外にも、月ごとの体験プログラムもありますので、イベント情報をご確認ください。



EXPERIENCE

見てさわって学ぼういきもの教室

どうぶつ広場は、「見て、ふれて、学べる」をコンセプトに、動物との正しい接し方や、動物を観察する楽しさを学ぶ場所です。

動物園に来て、ただ「楽しい」だけではもったいない！五感を通じて動物を理解する方法を学びましょう。「エサは何？」「どうやって食べるの？」「足の指の数は？」「どうしてこんな姿かたなんだろう？」ひとつでもそんな不思議を感じたら、動物たちの観察がもっと楽しくなります。こどもはもちろん、大人の方もぜひご参加ください。

②乗馬・馬車体験(2022年)

与那国馬や濟州馬等による乗馬・馬車体験

	年間体験者数
乗馬(ショート)	3,065名
乗馬(ロング)	827名
馬車	95名

HORSE

乗馬体験

沖縄の在来馬である与那国馬をはじめとしたウマたちに、実際にふれて乗ることができる体験です。

乗馬で、はいつもより高い視線を楽しめたり、人より少し高いウマの体温を実感できます。さらに乗馬の時の独特な揺れもオススメのひとつです。ウマ達は1頭1頭違う顔をしていますので、ぜひお気に入りのウマを見つけてください。

※乗馬体験は体重制限がございます。
与那国馬65kg・濟州馬50kgまでとなります。



③動物園活用プログラム(2022年)

イベント名	内容	実施日	参加人数
419の日イベント	大人の飼育体験、バックヤードツアー	4/1~17	370名
夜の動物園わくわくZOOナイト	閉園後の園内を飼育員と巡る	6月7月の土曜5回	95名
サマースクール	動物たちへの学びを深める	8/16~18	14名
ヤクシマザルの赤ちゃん名前募集	命名募集イベント	9/5~30	369名
沖縄奄美世界自然遺産登録1周年記念クイナの日	環境省の保護増殖事業の一環として分散飼育をしているヤンバルクイナの限定公開	9/17~19	2,800名
とらやまイベント	飼育員によるツシマヤマネコガイド	10/9	300名
島ヤギ「めうは」お披露目会	希少在来家畜の島ヤギをお披露目	11/3	40名
Dream Night at ZOO in 沖縄こどもの国	障がいのある子ども達とその家族を無料招待	11/26	190組 697名
琉球弧の希少種を知ろう。カンムリワシの危機。	カンムリワシ週間にちなんで、普及啓発の一環としてパネル展示やガイドなど	2/19	20名
道産子来園。命名式	北海道和種について5つの候補名が入った飼料箱をウマ自身に選んでもらう命名式	2/20	50名
島ヤギの赤ちゃんの命名式	「ダダ」の命名式	3/4	50名
		合計	4,805名



④普及啓発活動 企画イベント(2022年)

イベント名	内容	実施日
飼育員のお仕事紹介パネル展	飼育員の仕事紹介	4/1~5/1
愛鳥週間パネル展	愛鳥の啓発展示	5/1~30
やんばるの森パネル展	やんばるの森の紹介	9/17~19
動物愛護週間イベント	動物慰霊祭	9/26
ツシマヤマネコ写真展	ツシマヤマネコの写真展	10/1~ 12/29
カンムリワシパネル展	カンムリワシの生態紹介	1/22~2/5

⑤実習・インターンシップ・職場体験(2022年)

学校教育との連携を図り、実習やインターンシップ制度など、動物園やワンダーミュージアム等を活用した他にはできない職場体験の機会を提供

団体名	回数	参加人数
沖縄ペットワールド専門学校	14回	77名
東京動物専門学校	1回	21名
大阪 ECO 動物海洋専門学校	1回	4名
川原アイペットワールド	1回	5名
沖縄市立コザ中学校	1回	3名
うるま市立与勝第二中学校	1回	3名
沖縄県立美咲特別支援学校	2回	10名
沖縄県立陽明高等支援学校	1回	3名
北中城村立北中城中学校	1回	3名
沖縄市立安慶田中学校	1回	3名
沖縄県立前原高等学校	1回	3名
宜野湾市立宜野湾中学校	1回	1名
宜野湾市在住高校生	1回	2名
サイ・テク・カレッジ美浜	1回	10名
岡山理科大学	1回	15名
沖縄国際大学	1回	10名
	30回	173名

⑥職業人講話・ジョブシャドウイング(2022年)

園内または各学校にて、沖縄こどもの国の概要や歴史、各スタッフの仕事内容等についての職業人講話およびジョブシャドウイングを行った

職業人講話

団体名	実施日	参加人数
大阪 ECO 動物海洋専門学校	6/8	30名
豊見城市立長嶺中学校	6/21	60名
南風原町立北丘小学校5年	6/30	30名
沖縄県立読谷高等学校2年	10/21	11名
沖縄県立美東中学校1年	10/25	40名
星野学園中学校2年(オンライン)	10/27	120名
豊見城市立伊良波中学校1年	11/21	70名
豊見城市立豊見城中学校1年	11/22	70名
宜野湾市立はごろも小学校	1/27	20名
	計	451名

ジョブシャドウイング

北中城村立島袋小学校	1/19	2名
------------	------	----

⑦調べ学習

県内の各学校や県外の修学旅行生による、沖縄こどもの国の概要や歴史、各スタッフの仕事内容等についての調べ学習に対応した。

団体名	実施日	参加人数
沖縄市立コザ中学校 2年 コロナ禍での沖縄こどもの国の取り組みについて	6/22	6名
沖縄国際大学 コロナ禍での沖縄こどもの国の取り組みについて	7/1	3名
沖縄市立コザ中学校 3年 琉球競馬ンマハラシーについて	11/9	4名
埼玉県立和光国際高等学校 2年 台風対策について	11/13	1名
茨城県日立高等学校 2年 イリオモテヤマネコとノラネコの違いについて	12/12	3名
茨城県日立高等学校 2年 本土と沖縄に生息する野生動物の方言の違いについて	12/12	4名
		25名

動物園をもっと学校教育に活用しよう!

動物園には飼育している動物たちはもちろん、野生の生き物たちも生息しています。
飼育動物をじっくり観察したり、野生のいきものを探したり、
新たな「視点」をもって動物園を楽しんでみませんか？

プログラム名	体験時間	内容	指導要領の単元 <small>※記載の単元は一例です</small>
①動物の観察	45分 ↓ 60分	ヒトと小動物の心音くらべと、ポイントを絞った小動物の観察を体験します。	小学1年生活科単元「なかよく ならうね 小さな ともだち」 小学2年国語単元「かんざつ名人に ならう」
②野生のいきものさがそう	始：10分 終：10分	いきものワークシートで園内の野生のいきもの探しを各自で行います。 その後スタッフよりまとめのお話をを行います。	小学1年生活科単元「なかよく ならうね 小さな ともだち」 小学2年生活科単元「秋はどこにやってくる」 小学4年理科単元「生き物の1年をふり返って」
③バッタ図鑑を作ろう	60分	せせらぎゾーンでバッタをつかまえて、観察しながら、自分だけの図鑑を作ります。	小学1年生活科単元「のほらであそぼう」 小学2年生活科単元「生きものをつかまえよう」 小学3年理科単元「こん虫を調べよう」
④動物のたんじょう	45分 ↓ 60分	飼育動物の誕生を動物園などで紹介するとともに、動物の発生についての講話を行います。	小学1年国語単元「どうぶつのおしゃべり」 小学5年理科単元「魚の誕生」
⑤生き物の仲間分け	始：10分 終：10分	園内で生き物の仲間分けシートを各自で作成します。 作成後、生き物の分類についてスタッフより講話を行います。	中学1年理科単元「いろいろな生物とその共通点」

沖縄の自然や文化について学ぶプログラム

沖縄は、世界中から見てもここにしかない自然があり、それらに育まれた特異的な文化を有する地域です。世界に誇れる沖縄について、楽しく学んでみませんか？

プログラム名	対象	1人あたりの金額	1団体の受入限度数	体験時間	内容	備考	指導要領の単元 <small>※記載の単元は一例です</small>
①ゆし豆腐作り体験	小学校 高学年以上	300円	30人	60分	大豆をしぼるところからゆし豆腐作り体験を行います。	対象年齢以下の場合は保護者同伴をお願いします。	小・中・高全学年「総合学習」
②黒糖作り体験	小学校 高学年以上	300円	20人	120分	在来家畜と黒糖の歴史のお話と、キビを絞るところから始める黒糖づくりです。	収穫時期の関係で12月～2月のみ受付	小学4年社会科単元 「地域で受けつがれてきたもの」
③沖縄の自然	5才以上	無料	60人	30分 5 60分	小学校3年生まで：沖縄の自然の特徴についてのお話といきものクイズを行います。 小学校高学年～：コウモリ・カエル・トカゲ・ヘビ・昆虫・鳥のテーマから講話を選択可能です。	定員数を超える場合は入れ替え制等に対応します。ご相談ください。	小学5年国語課単元 「固有種が教えてくれること」 小学6年理科単元 「地球に生きる」
④沖縄の昔のくらし	小学生以上	無料	60人	15分	「ふるさと園」を見学しながら各自でワークシートを解きます。その後スタッフより解説・質疑応答を行います。	所要時間は、スタッフによる解説・質疑応答のみを指します。本プログラムは、沖縄こどもの国ワークシートと組み合わせてご利用することも可能です。	小学4年社会科単元 「地域で受けつがれてきたもの」

ワンダーミュージアム団体プログラム

実験ワークショップ以外は雨天のみの予約をすることが可能です。
*夏休み・春休み期間中は期間限定メニューがあります。HPなどでご確認ください。
*ワンダーミュージアムご利用時間とは別に、団体プログラム利用時間を設定いたします。
団体プログラム申込用紙にご希望時間をご記入ください。

プログラム名	1人あたりの金額	1団体の受入限度数	体験時間	内容	備考	指導要領の単元 <small>※記載の単元は一例です</small>
①オリジナル缶バッジ作り	350円	50人	60分	専用台紙にクーピーで好きな絵を描き、マシーンで押しつけてオリジナル缶バッジを作ります。	動物の顔や模様の座学を行い、動物モチーフのバッジにすることも可能。	小学2年生活科単元 「作って ためて」
②空気の実験*空気砲作り	400円	50人	60分	紙のボイド管を使用して1人1個手持ちの空気砲を作ります。できあがった空気砲で実験にもチャレンジします。		小学2年生活科単元 「作って ためて」 小学4年理科単元 「空気・水の性質」
③鏡の実験*万華鏡づくり	400円	50人	60分	鏡の反射を利用した実験を行った後、各自オリジナルの万華鏡を作ります。		小学3年理科単元 「光と音の性質」 中学1年理科単元 「身のまわりの現象」
④水溶液実験	100円	30人	60分	紅イモ粉を溶かした水を使用し、水溶液のグループ分け実験を行います。	31名以上の場合には、グループ分けを行うなどの調整あり。	小学5年理科単元 「物のとけ方」 小学6年理科単元 「水溶液の性質と はたらき」

⑧教育普及活動

2.3.1.1.1. ワンダーチャレンジビンゴ

親子や友達同士など来館者同士の対話を促し、さらにプレーヤー（スタッフ）とのコミュニケーションを通して、ワンダーミュージアムでの体験をより効果的にするプログラムを実施した。

No.	ワークショップ名	実施期間	実施回数	延べ参加人数
	内容			
1	ワンダーチャレンジビンゴ	2022年7月20日(水)～9月30日(金)	68回	4,613名
	館内の展示などを体験してスタンプを集め、特製ビンゴカードを完成させるプログラムを実施した。			
計			68回	4,613名

2.3.1.1.2. ふしぎラボワークショップ

ふしぎとの出会いを通して、こども達の好奇心を刺激し探究する楽しさを体験するワークショップを実施した。

No.	ワークショップ名	実施期間	実施回数	延べ参加人数
	内容			
1	温度とは？ サーモカードづくり	2022年10月8日(土)～10日(月祝)、 2023年2月11日(土)～12日(日)	11回	163名
	温度とは何か？サーモカメラなどを用いて、温度の変化や変化させるための方法などを実験を通して学ぶ。 ※本プログラムは一般財団法人全国科学博物館振興財団が実施する科学系博物館の活性化への助成事業を活用して実施した。(P.150 参照)			
計			11回	163名

2.3.1.1.3. つくるラボワークショップ

創作意欲を刺激し、つくる楽しさを体験しながら創造力を育むワークショップを実施した。

No.	ワークショップ名	実施期間	実施回数	延べ参加人数
	内容			
1	ガチパッチ	2022年5月28日(土)～29日(日)、 6月4日(土)～5日(日)	4回	95名
	缶バッジマシンを使って、絵を缶バッジとするのではなく、バッジの表面に刻印を付けて、立体的な缶バッジを作った。			
計			4回	95名

2.3.1.1.4. かんかくラボワークショップ

No.	ワークショップ名 内容	実施期間	実施回数	延べ 参加人数
1	おばけ製作所 2022 来館者が考えたおばけを製作用紙に記入し、ポストに投函する。投函されたおばけが実体を伴って出現するかも。身の回りにおける不思議や気になることを見つけて想像する感性を養った。	2022年4月1日(金)～7日(木)	7日	784名
2	スタンプバックづくり コットン靴に、丸や三角、四角などの形をスタンプして模様をつける。靴に型を利用した模様を作り出すことで、想像力を養った。	2022年7月23日(土)～8月31日(水)	40日	774名
3	親子でやってみよう、 試してみよう 幼児向けに遊びながら科学やアートを体験する「いろいろまぜまぜ」「くうきであそぼう」「おとであそぼう」の3つのテーマのワークショップを実施した。	2022年9月18日(日)～19日(月)、 10月12日(水)、15日(土)～16日(日)、 2023年2月18日(土)～19日(日)、23日(木)	19回	180名
4	げんきくじアトリエ 2022 正月に実施する「ワンダーげんきくじ堂」の言葉を募集するプログラム。元気が出る言葉を考えることで、想像性、共感性を養った。	2022年11月5日(土)～27日(日)	20回	434名
5	ワンダーげんきくじ堂 2023 「げんきくじアトリエ」で集まった元気が出ることばをくじとして、一年元気が出るようなおみくじを行った。	2023年1月2日(月)～9日(日)	8日	1,393名
6	カラフル紙すき体験 花紙を水に溶かして作った紙の元を混ぜ、色を作りながら型に流し込み、水気を乾燥させて、カラフルな紙を作った。	2023年3月21日(火)	1日	48名
計			95回	3,613名

2.3.1.1.5. インハウス工房ワークショップ

No.	ワークショップ名 内容	実施期間	実施回数	延べ 参加人数
1	真鍮アイスクリーム スプーンづくり 真鍮を原料として自分だけのアイスクリームスプーンを作成する。平らなスプーンの型を叩いて変形させ自分に合った理想のスプーンを作成し、創造性を養った。	2022年7月30日(土)～31日(日)、 8月13日(土)～14日(日)、 27日(土)～28日(日)	6回	244名
2	はざいざんざいでつくろう (端材残材) ワンダーミュージアムで修繕や制作物を行った際に出てきた、端材や残材を利用して参加者の作りたい物を製作する。 エコライフイベントの趣旨に合致するリユースコンテンツとしての役割も担った。	2022年11月12日(土)	1回	35名
計			7回	279名

2.3.1.1.6. おでかけワンダーワークショップ

● どうぶつ探偵アニマルン～オリジナル図鑑を作ろう～

毎月テーマを変えて動物の体のある部分に着目し、参加者が動物を観察しながら動物の絵を描くワークショップを開催し、動物園の楽しみ方や動物そのものの特徴へに気づきを促した。

No.	テーマ	実施日	延べ 参加人数
1	ひげ	2022年4月23日(土)～24日(日)	66名
2	鳥の足	2022年5月21日(土)～22日(日)	105名
3	ワニの口	2022年6月25日(土)～26日(日)	134名
4	ひざ	2022年7月16日(土)～17日(日)	68名
5	木の上でくらす	2022年8月20日(土)～21日(日)	75名
6	オオカンガルー	2022年9月24日(土)～25日(日)	80名
7	目	2022年10月29日(土)～30日(日)	75名
8	クマ	2022年11月26日(土)～27日(日)	128名
9	鼻の穴	2022年12月17日(土)～18日(日)	27名
10	耳	2023年1月21日(土)～22日(日)	44名
11	たてがみ	2023年2月25日(土)～26日(日)	32名
12	ツメ	2023年3月25日(土)～26日(日)	41名
計			875名

2.3.1.1.7. 工作プログラム

親子や幅広い年齢層が楽しめる工作体験プログラム「ちょっきんとべったん」を、年間を通じて実施した。

No.	プログラム名 内容	実施期間	実施回数	延べ 参加人数
1	工作プログラム ちょっきんとべったん アイロンビーズ、缶バッジ、マイグラスの定番メニューや、季節限定商品から好きなメニューを選んで製作した。	2022年4月～2023年3月の全ての 開館日	320回	12,388名
計			320回	12,388名

2.3.1.1.8. 廃材工作プログラム

廃材を活用し工作する体験を通して、ものを大切に再利用する知恵と新たな発想で素材を活用する技を育むプログラムを、年間を通して実施した。

No.	プログラム名 内容	実施期間	実施回数	延べ 参加人数
1	わじゃぶくろ 毎月テーマを決めて動物を観察しながら動物の絵を描く。動物園の楽しみ方や動物そのものの特徴に気づく。	2022年4月～2023年3月の全ての 開館日	320回	4,170名
計			320回	4,170名

2.3.1.1.9. がんまり研究室プログラム

こども達の感性を刺激し、新たな発想やひらめきを生み出していくプログラムを、年間を通して実施した。

No.	プログラム名 内容	実施期間	実施回数	延べ 参加人数
1	がんまり遊び発明 遊びやおもちゃ、装置などの発明アイデアを絵や文字で表現し募集した。	2022年4月～2023年3月の全ての開館日	320回	1,578名
2	がんまり研究室（あそびの森） あそび心を刺激する「がんまり展示」、発想を自由に書く企画展。こども達から寄せられた1,015点の「がんまりあそび発明」を図鑑にまとめ供覧した。	通年		
3	がんまりひらめき検定 きづっきりんをテーマに、創造力と発想力を広げるプログラムを実施した。	2022年10月23日(日)	1日	50名
		計	321回	1,628名

⑨育成・運営事業

2.4.1.1. ボランティア活動事業

動物園やワンダーミュージアムなど、園内において様々なボランティア活動のコーディネートを行った。

No.	事業名 内容	実施期間等	延べ 参加人数
1	動物園サポートボランティア	通年	329名
	ふれあい広場やうまんちゅ広場での飼育員の仕事を学び、接客などのサポートおよび動物のエサの準備補助を行った。		
2	団体ボランティア	通年	803名
	ワークショップ準備の他、園内美化、餌づくりなどを行った。		
3	動物のこはん育てあげ隊ボランティア	通年	304名
	動物のエサとなる野菜や野草、稲などをせせらぎゾーンで育てた。		
4	いきもの調査隊ボランティア	通年	114名
	園内に生息する生き物や植物について専門家と共に調査し、標本や図鑑を作成して発信した。この調査において当年度に確認された昆虫・植物全種のリストを付録（P.190～）に記す。なお、前年度（令和3年度）にこの調査から新種「ホシガタハラボソコマユバチ」の発見に繋がるなど、本活動は学術的成果に貢献している。		
6	短期ボランティア		441名
	沖縄こどもの国フェスティバルや学校長期休暇期間、イベント時の運営サポートを行った。		
計			1,991名

【ボランティア月別総計 個人】 延べ人数・延べ時間

事業略名	4月	5月	6月	7月	8月	9月		
動物園 ボランティア	27名	23名	33名	29名	22名	27名		
	70.0時間	59.0時間	81.0時間	77.5時間	78.5時間	69.0時間		
ごはん 育て隊	20名	25名	20名	27名	27名	26名		
	40.0時間	50.0時間	40.0時間	54.0時間	54.0時間	50.0時間		
いきもの 調査隊	12名	9名	9名	9名	9名	10名		
	60.0時間	45.0時間	47.0時間	45.0時間	45.0時間	50.0時間		
短期	47名	81名	4名	61名	213名	17名		
	360.0時間	624.0時間	20.0時間	359.0時間	1197.0時間	94.0時間		
計	106名	138名	66名	126名	271名	80名		
	530.0時間	778.0時間	188.0時間	535.5時間	1374.5時間	263.0時間		
事業略名	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
動物園 ボランティア	26名	26名	28名	28名	25名	35名	329名	
	64.0時間	70.5時間	72.5時間	103.5時間	65.0時間	89.5時間	900.0時間	
ごはん 育て隊	18名	36名	28名	30名	21名	26名	304名	
	36.0時間	72.0時間	56.0時間	60.0時間	42.0時間	52.0時間	606.0時間	
いきもの 調査隊	9名	11名	8名	8名	9名	11名	114名	
	45.0時間	55.0時間	40.0時間	31.0時間	45.0時間	55.0時間	563.0時間	
短期	18名	0名	0名	0名	0名	0名	441名	
	112.0時間	0.0時間	0.0時間	0.0時間	0.0時間	0.0時間	2766.0時間	
計	71名	73名	64名	66名	55名	72名	1188名	
	257.0時間	197.5時間	168.5時間	194.5時間	152時間	196.5時間	4835.0時間	
							前年比	187%
								204%

【ボランティア月別総計 団体】

種類	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年比
団体数	15	9	13	5	11	9	10	11	8	10	10	8	119	170%
延べ人数	141	62	59	21	66	41	46	97	50	65	87	68	803	162%
延べ時間	429.0	333.0	97.5	32.0	100.5	71.0	58.0	164.0	70.5	116.0	114.0	91.0	1676.5	153%

12/13(金)10:00~11:00

沖縄県沖縄市 こどもの国

お伺いした方 翁長様

①インターンシップについて

Q:インターンシップはされているのでしょうか？

小学生から大学、専門学校まで行っています。
コロナ禍の時はやはり少なかったですが、コロナ以降は増えており、
2023年は年間24校合計248名ほど受け入れています。

Q:インターンシップの具体的な内容を教えてください。

小学生と中学生は、売店や受付などの見学や体験をしてもらっています。
高校生になると、バックヤードの見学や飼育体験も行っています。

専門学校生は、専門的な知識と技術があるので、飼育を体験してもらっています。沖縄ペットワールド専門学校さんは、5月から定期的に月2回、3名ずつ受け入れています。

園では飼育班が3つあります。その3つの飼育班にそれぞれ1名入ってもらって実習を行っています。

学芸員資格を取る大学は、学芸員専門プログラムがあります。最終的に展示や動物ガイドを行ってもらいます。

Q:インターンシップや実習の評価はどのようにされていますか。

基本的に、実習の評価は学生の書いた日誌をもとに行っています。特に評価シートなどは準備していません。

②今年行ったペットワールド専門学校の学生ボランティアについて

Q:今年も学生がボランティアでお世話になりました。ボランティア活動で何か気づいた点などがあるでしょうか？

300人のこどもたちを対象にスタンプラリーをやってもらいました。参加したこどもたちがとても楽しそうにしていました。

学生もこどもたちにやさしく接していてとてもよかったですと思います。やはり学生たちはこどもたちと年齢が近いので、私たち職員が対応するのとは違い、こどもたちも受け入れやすいのかなと思います。

③サービスラーニングについて

Q:今後、我々は学生ボランティア活動を一步進めたサービスラーニングの展開を考えていますが、よいテーマはあるでしょうか。

そうですね。動物ひろばの企画・運営がテーマとしてあるのではないかと思います。

動物にふれあうことが確かに大切ですが、それは虐待につながるということから最近ではただ単にふれあうことは否定的な見方が主流です。

これからは、アニマルウェルフェアに基づいた、新しい「ふれあい」のストーリー(正しい接し方と観察からの学び、生息環境の学び)を展開したいと考えています。

是非、学生さんの力をお借りできればと思っています。

ショッピングセンターや住宅展示場、幼稚園のイベントなどで、全国的にふれあい移動動物園が開催されていた時に、動物への虐待ではないかという非難が多く出ました。

イベントなどの大音量の音、気温管理、湿度管理、カメラやスマホのフラッシュなどの環境要因だけでなく、人に触られるストレスが動物に生じます。しかも、一日中休みなしに展示されています。うさぎ、モルモット、ハムスターなどの小動物は子どもに強く握られたり押さえつけられたりすることもあります。

それ以上に動物たちのストレスになるのは、イベント会場への移動だといわれています。

Q:ありがとうございます。他には何かよいテーマはあるでしょうか。

はい。その他、園では本当にたくさんの動物イベントを行い、こどもたちにメッセージを伝えています。

さまざまなテーマを持ったプログラムをこれからも揃えていきたいと思っています。

調査総括

①実習、インターンシップについて

様々な職種や職場の環境にあわせた実習、インターンシップが行われていた。動物関連の仕事に特徴的なことは、インターンシップの要素より実習要素が強く感じられた。

本来、インターンシップの目的は様々な社会体験や多くの仕事体験を通じ職業観を確立したり、社内の雰囲気や体感したりすることである。一方、実習は特定の資格や特定の職種に就くための実習である。

今回面接調査を行った団体のほとんどが、専門学校生は「実習」、一般の大学は「インターンシップ」、小学生は「職場見学」、中高生は「職場体験」と、内容を明確にされていた。

小中学校、高等学校については企業と教育目的の連携を持つ必要があり、専門学校生は、学校に個人の技術や性格に関する情報提供を望んでいた。専門学校生本人には自分自身のキャリア目標や計画を明確に持つことを望んでいた。

②実習、インターンシッププログラムについて

プログラムとしてマニュアル化されたもの(言語化されたもの)に従ってすすめている団体は少なかった。多くは、学生を受け入れて面談や日誌を見て指導をしていく形をとっていた。

学生に対する評価も明確なものではなく日誌や実習簿に評価を書くものが多かった。

そのような中でDMMかりゆし水族館では、しっかりとしたインターンシッププログラムを整備されているのが印象に残っている。

③業界の課題について

人手不足が多く挙がっていた。特に中堅クラスの不足が深刻で、仕事を覚え技術が身についたところで退職する従業員が多いことの現われである。

学生に対する評価も明確なものではなく日誌や実習簿に評価を書くものが多かった。

④サービスマーケティングについて

多くの団体から賛同を得られた。特に、繁殖犬の譲渡会、動物ひろばの企画は実現可能性が非常に高く、来年度実施のよいテーマになる。

今回の調査で企業や団体にはマンパワー不足からやりたくてもできない地域貢献テーマがあることがわかった。引き続き、地域の企業団体にサービスマーケティングの説明と協力を要請しつづけることが大切である。

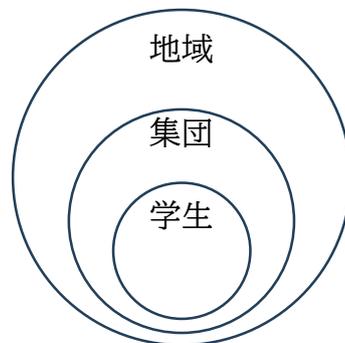
学生の社会貢献活動の方向性

ボランティア活動とは

「自発的な意志に基づき」、「他人や社会に貢献する行為」。
「活動者個人の自己実現欲求の充足」のために「時間や労力、知識、技能を提供する」活動によって、さまざまな構成員がともに支え合い、地域社会づくりが進むなど大きな意義を持つ。

ボランティア評価の視点

- ①ミクロの評価「人の評価」:参加した学生の考え方、意識、行動・態度の変容評価
- ②メゾの評価「組織・集団の評価」:ボランティア組織の作業、計画、行動、情報共有の評価
- ③マクロの評価「地域・社会の評価」:ボランティア活動を通じた地域、組織、社会の関連性や行動変容の評価



ボランティア活動と教育の難しさ

(私立大学退職金財団「学生ボランティアの正しいススメ」環境活動家:田中優)

●参加する学生の問題点

- ①「自分探し」のために参加する学生が多い。ボランティアは他人のために行うことであり、ボランティアの趣旨と相反する。
- ②活動を「何かの手段」にする学生が多い。進学や就職活動に役に立つという目的で参加すると真の気づきは得られない。
- ③「ぶっつけ本番」ではいけない。事前に必要な知識や能力について勉強をする必要がある。

●送り出す教員の問題点

- ①「行事化や参加の強制」はしない。教員の仕事は参加を指示するのではなく、参加しやすい環境を整える。
- ②「評価対象」にしない。ボランティア活動を評価対象にすると学生は評価対象を気にするようになり、建前の感想を述べるようになる。

●ボランティア活動を受ける側の問題点

- ①安い労働力とみなさない。
- ②頼りきりにならない。

学校外の活動への参加経験

(「高校生の社会参加に関する意識調査報告書-日本・米国・中国・韓国の比較-」国立青少年教育振興機構:令和3年6月)

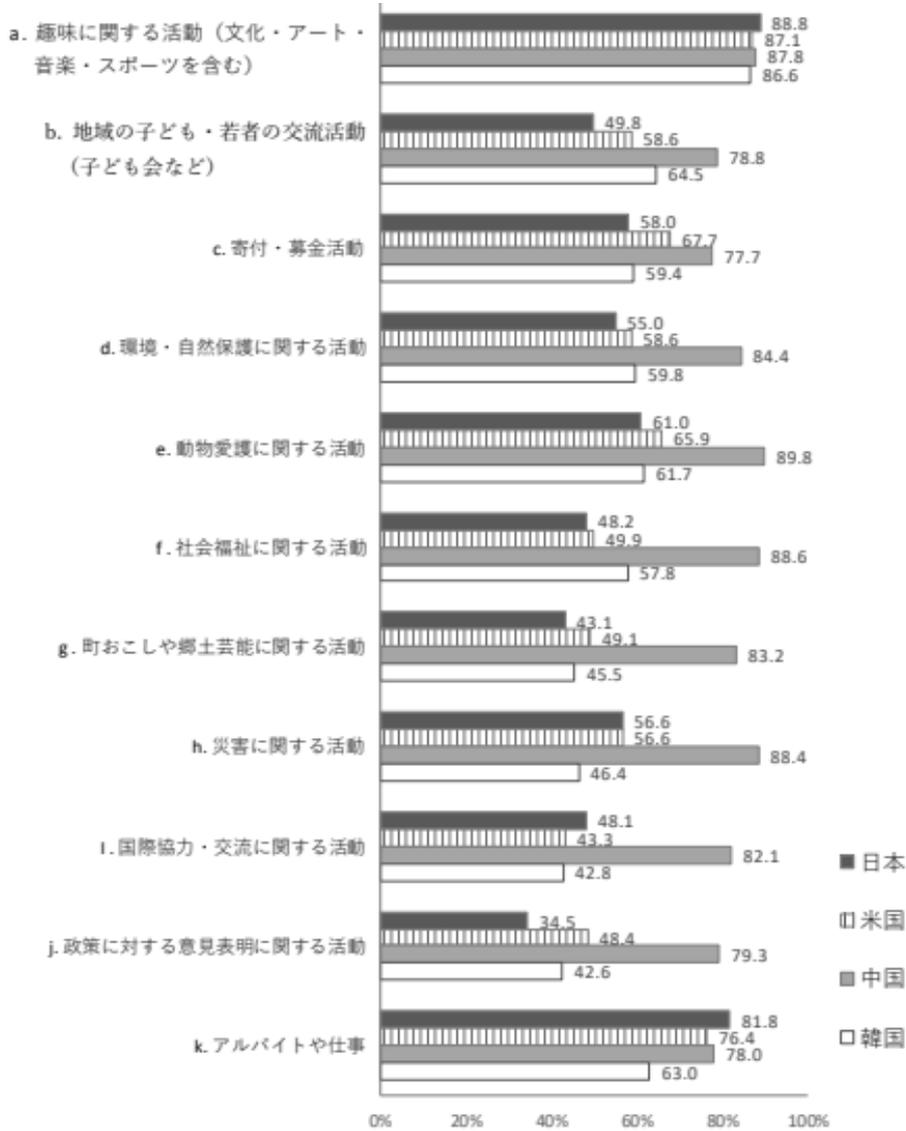


図 2-3 a.~k.の活動にどのくらい関心を持っていますか(「とても関心がある」「まあ関心がある」と回答した者の割合)

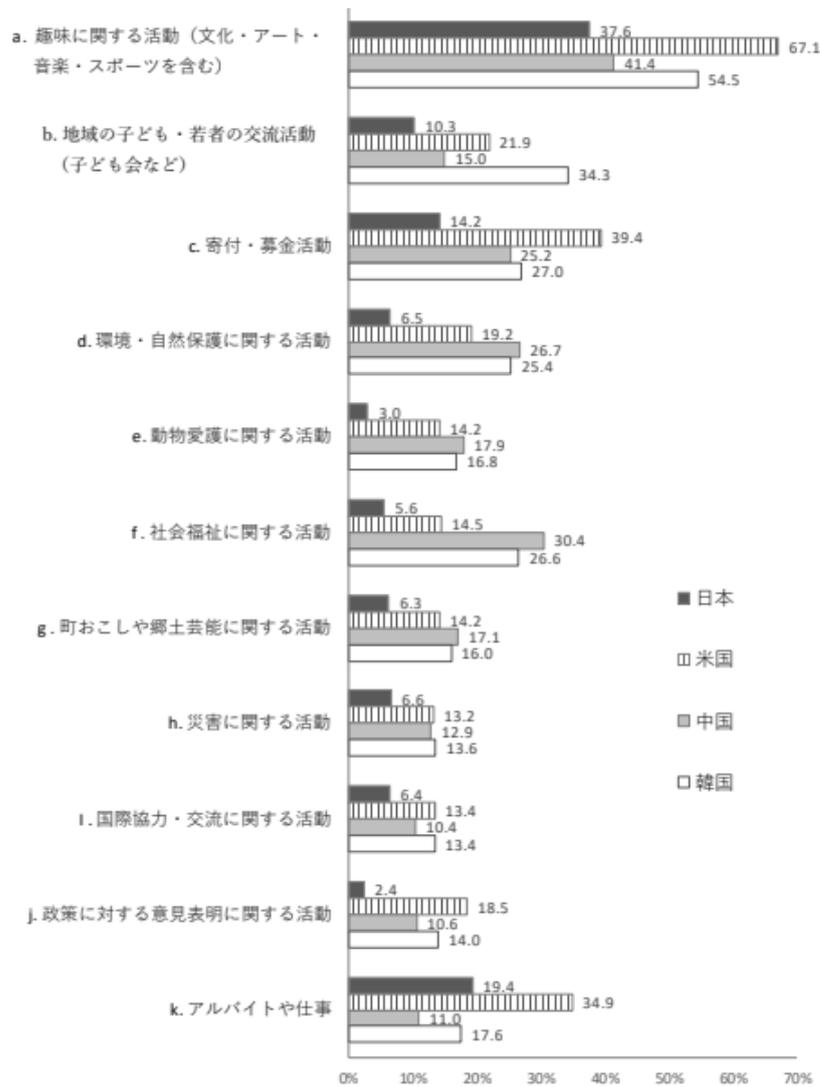


図 2-1 最近 1 年間、学校外で参加したことがある(現在、参加しているも含む)こと

KBC「サービス・ラーニング」について

サービス・ラーニングとは、「学校における学び」と「社会における諸課題の解決」を具体的な実践活動を通して結合させていく学びの手法です。このような視点から実践される様々な社会貢献活動によって、双方向の人間関係を育み、学生が市民としての資質や社会性を高め、課題解決力、チームとしての実践力などを高めていくことを目的としています。

社会活動を通じて市民性を育む



学生の主体的な学びの場を「地域課題」の中に見だし、地域の方々と協働して活動することにより連携、交流が活発化し、さらには学生自らが成長を実感する状況を実現する。また、ステークホルダーに対して KBC 学園の学びへの信頼感を高め、地域を支える人材や活動の拠点としての学園づくりを進める。

プログラム例

地域の身近な問題についての①要因分析を行い、②解決策を立て、③関係団体と協働で解決計画を立案し、④自主的な活動(ボランティアに相当)を行い、⑤新たな課題を見いだす、一連の教育活動

①地域課題の調査と分析(課題抽出) → 県や市町村、団体に提出・報告、協議

②目標設定と活動計画作成 → 県や市町村、団体に提出・報告、協議

目標設定事項

①どれだけ地域にインパクトを与えられるか(アウトカム指標:組織・地域の質的評価)

例)保護猫減少率、環境保護寄付金額など具体的な数値目標

②①を達成するための活動(アウトプット指標:いつ、どこで、だれが、なにを、どのように、どのく

らい活動するか)

例)ボランティア参加者数、活動回数、活動内容、集客数、パンフ配

布数、SNS 視聴数

③活動実施 → 県や市町村、団体と協働

④活動振り返り →

①活動評価(アウトプット指標の評価)→次年度への活動指針作成

②成果評価(アウトカム指標の評価)→次年度への活動指針作成

③学生の意識・行動変容評価

サービスラーニング受入に関する調査票

日時： 年 月 日 : ~ :

調査担当者:

面接企業・団体名

1. インターンシップ、学生ボランティア活動など学生受入の状況

2. インターンシップの改善点や、マンパワーなどの不足で実現できていない業界課題・社会課題・企業課題などの有無、アイデア

3. サービスラーニング実施の可能性やテーマ、その他アイデア

本報告書は、文部科学省の専修学校による地域産業中核人材養成事業による委託事業として、学校法人KBC学園沖縄ペットワールド専門学校が実施した、令和6年度「沖縄・動物分野における有機的高専連携プログラム開発・実証事業」の実証授業評価をとりまとめたものです。